

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200071		
法人名	一般社団法人 正和会		
事業所名	グループホーム かわたな		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397番地		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を尊重し、持っている能力を發揮できる場を提供することで、その人らしく生き活きと毎日が過ごせるような支援に努めている。また、作業をしたり、自らの思いを表現できない方でも皆さんの輪の中に加わることで食事の支度の音や匂い、笑い声を届け五感に働きかけ、声をかけたり触れたりすることで安らぎを感じてもらえるようなケアを行っている。法人が変更になっても、以前からの信頼関係を継続し、職員のモチベーションが保てるように一人一人の力量を引き出せる声かけをしている。前法人から、年数が長く勤務している職員が多く、慣れすぎない関係性と、新たな取り組みを受け入れる姿勢を心がけている。ホームとして入居者様、家族様、職員みんなが、笑顔で過ごせる雰囲気作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは川棚町の中心部に位置し、周辺には役場・ショッピングストア・商店街等が立ち並び利便性も良い。ホームの敷地には有料老人ホームやデイサービス事業所、居宅介護支援事業所があり、各事業所と連携した支援を展開している。ホーム内は事務室を挟んで右にAユニット、左にBユニットがあり、入居者は両ユニットへ行き来ができる開放的な空間となっている。また、ユニット間における職員同士が良好な関係を築いており、ユニット間で協力しながら入居者支援に繋げている。代表理事や管理者は職員を『宝』と捉え、職員が働きやすい職場環境を整えることで職員のモチベーションや意欲の向上に繋げており、職員の責任感を持った入居者支援への姿勢からそのことが窺える。昨年、ホームを一般社団法人が運営するといった変遷があり、以前の運営体制の優れた点を踏襲しつつこれからの業界の中で環境変化や実情に応じた新しい取り組みを考慮し、代表理事や管理者が惜しむことなく尽力しており、これからも地域に根差した入居者支援に期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がサービス基本であることを念頭に置き、事業所理念の中から特に大切な部分を抜粋し、職員の目につくところに掲げている。また、職員がケアにおいて大切だと思っていることを集結したユニットの理念も新たに掲げ、実践に繋げている。	昨年1月、ケアマネジャーが「理念を見直そう」をテーマとした外部研修を受講後、介護理念をもとにユニットそれぞれの特色を活かした理念を作成している。現在Aユニットの理念が完成しており、Bユニットについては調査時現在において作成中であった。当ホームは理念に関しての意識が高く、職員も理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナウイルス感染症の観点から地域との関わりがむずかしい現状である。しかし、入居者様の行き慣れた美容室とかは、とぎれないように工夫している。	コロナ禍の影響で地域とのつきあいはできていないが、以前は地域の夏祭りへの参加や、小・中学校及び近隣の特別支援学校からの職場体験の受け入れや、介護の勉強の受け入れ等を行っていた。現在は運営推進会議メンバーの民生委員を通して地域との繋がりが途切れないように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の家族様へ、認知症の人の対応等相談を受けたことに支援の方法を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策を考え、運営推進会議の方法を変更しながらお互いの意見ができるようにしている。	運営推進会議はコロナ禍の影響で書面会議としているが、会議開催について役場に問い合わせ、10月9日に町役場の会議室にて介護保険係職員と同町の3グループホームとの合同運営推進会議を開催した。次回の合同運営推進会議については来年3月に開催を予定している。議事録には質疑応答の内容を記録しており、職員や各グループホームの意見・報告等の情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での相談もあれば、話し合う機会をつくり、とぎれない工夫をしている。	運営推進会議について行政へ相談することで町役場での会議開催に繋がったほか、運営に関し不明な点があれば直接役場に出向いて問い合わせるなど、保険者の専門的見解を聞いている。また、入居者の新規・見直し時のケアプラン作成後には窓口提出するなど、連絡を密に図ることで運営の透明化に努め、協力関係を築いている。	新規・更新時のケアプランを町役場介護保険係の窓口提出し、職員へのケアプランに沿った支援の意識付けを行っていることは他にない取り組みである。今後も継続するためにも、その旨を重要事項説明書に付記するなどして家族にも説明し更なる運営の透明化を図るとともに、市町村との信頼関係の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束委員会で、身体拘束につながる行為を行っていないか検討しており、ホーム内では資料を参考にし、研修会を行っている。また、日中は玄関の施錠はせず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員を設置し、3か月に1回、各ユニットで身体拘束適正化検討委員会を開催している。ホームでは身体拘束についての指針を掲げ、外部研修を受けた職員による内部研修や勉強会を行うことで身体拘束について職員に周知している。センサーについてはサービス担当者会議を通じて家族へ使用目的を説明し、同意を得ている。	日々の支援の中で職員が身体拘束についての振り返りがいつでもできるよう、身体拘束に該当する11項目や3つの原則、3つのロックについての簡易的なマニュアルを作成し職員が確認しやすい場所に設置し周知することで、職員が日頃から身体拘束についての振り返りや意識を持って支援ができることに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開き、虐待行為が行われていないか、虐待とおもわれるような対応をしていないか検討し、話し合いを行っている。また、参考資料や研修などで実際にあった虐待の事例について学ぶ機会があり、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の資料や実際の事例について学ぶ機会があっても、当施設に於いてはまだ制度の活用を必要とするケースに当たっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要書類を準備し、丁寧でわかりやすい説明を行っている。改定などの際は面会時や訪問して直接説明や文書の送付などで理解して頂き、不安や疑問があれば再度説明し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行ったり、家族会や推進会議で皆様の意見等を聞き出せるようにしている。	ホームでは年1回家族会を開催し、アンケートを配布することで家族の意向把握に努めている。アンケートは回答を集計し、記入された意見を載せて家族に返送しており、アンケート結果から他の家族の意見や思い、意向等を知ることができるほか、同じ立場や視点から他の家族の気持ちを共有できるため、結果の送付を楽しみにしている家族もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	医療法人より、一般社団法人への変更に伴い、職員の混乱を招かないよう説明を受けて、職員の意見や疑問、提案を聞く機会を設けた。要望等も声が届けるように努めている。	代表理事や管理者は職員が宝であると捉えており、法人体制の変更後は以前の法人の歴史を残しつつ、職員の身体への負担軽減やできる限り希望に沿った休暇が取得できるよう配慮するなど、新しい体制づくりに取り組んでいる。また、職員自ら意見や提案を進言し運営に反映することで質の良い入居者支援に繋げており、職員の上下関係についても風通しの良い関係性を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人について自己評価を記入し、それも踏まえ個々の努力や実績、能力を評価し、給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会を開いたり、今後はコロナの影響で研修もオンラインでの参加が主流となるため、参加できる環境での学びを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会において、交流の場を設けている、また、記録の書き方やアセスメントの仕方など、お互い情報を交換したりし、サービスの向上に繋げている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に周囲からも情報を収集し、本人の状況をある程度把握したうえで聞き取りを行い、本人の尊厳を傷つけないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の話し合いの中で、ご家族の要望や不安に思っていることなど伺い、今後何でも話し合いができるような雰囲気作りを行い、想いを共有したり信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合ったサービスは何か優先順を見極めて提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	困ったことや不安な気持ちにならないよう本人様のそばに寄り添い、話を伺いながら安心してもらえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と話しやすい関係を作ることで絆を深め、ご本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため、外出やなじみの人との触れ合いが減ってしまったが、状況に合わせてドライブなどでなじみの場所に出かけたり、電話で直接話をしてもらい、関係が途切れないうにしている。面会もその時の状況に合わせて、対策をとっている。	コロナ禍の影響で、現在は入居者にとっての馴染みの場所に行くことや、以前からの馴染みの方と会うことが困難な状況である。尚、ドライブによる入居者の自宅訪問や、以前から大切にしていた寺院に出向くなど、現在の状況の中でホームができることを考え、関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の得意分野を活かし、入居者同士での肩もみや調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、ごみ捨て、お菓子作りなどをスタッフも一緒に行うことで、皆と支え合い生活をしているんだという思いを大切に、孤立することがない様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中見舞いの葉書きや年賀状を出したり、電話を入れたり訪問して近況をお尋ねしたりしている。必要に応じて相談を受け支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には必ずご本人様やご家族の意向を伺っている。また、伝えることが困難な方も含め日ごろから会話や動向・表情の観察を行い、本人様の思いをくみ取り、検討している。	ホームでは入居者の日々の様子を記録できるよう入居者9名分の用紙をルーム内に設置し、本人との会話や表情等の観察から得た気づきや新たな情報をすぐにメモとして残している。メモの内容は業務日誌や個人記録に記入し、ケアプランに反映している。また、入居者の日頃の会話の中から思いを汲み取り、本人の真意の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお聞きすることは勿論、施設側と本人様・ご家族との関係が築ける頃にも伺いし、新たな情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、状況把握をもとに体調の変化に早く気付く様努めている。食事や水分・排泄状況・バイタルチェックや言動を記し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族などと話し合い介護計画作成を行い、ミーティングなどでモニタリングを行っている。また、課題やケアについて検討し話し合っている。突発的に発生した課題やケアに対しても話し合いをしご本人がより良く生活できるよう介護計画を見直ししたり、作成している。	ケアプラン作成時や見直し時に家族へ意向を聞き取り、ケアプランに反映している。ホームでは職員へのケアプランに沿った支援の意識付けとして、担当職員によるアセスメントやミーティング時に職員全員でモニタリングを行っており、計画作成担当者がプランを立案している。また、日々の入居者支援時にはケアプラン実行表へ目標に沿った項目を記載し、達成度を記録に残すよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、ケアに対しての気付きなど個人記録や介護日誌へ記録し、職員間で話す等して情報の共有を行っている。また、ケアプラン実行表も活用しモニタリングなどで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、状況に応じた対応を考え、必要な支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染が気になる状況で地域の行事なども中止され参加できていない。季節を感じてもらえるよう季節の食材や花など活用している。また、外気浴やドライブで景色を楽しみ季節を感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族などの希望を確認し、医療機関と連携しながら適切に、専門的に医療が受けられるように支援している。	以前の母体医療機関や長崎川棚医療センター、歯科、精神科と協力体制を築いている。家族の要望を聞き取りながら、入居者の身体状況に応じた訪問診療や専門医療機関への受診支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にその都度相談が出来る体制をとっており、必要に応じて医療を受けられる様、医療連携を密にとっている。また、情報を共有できるよう記録にも残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は面会をこまめに行い、入居者様の状況を把握し、退院時は病状の経過など医療機関と連携し、ご本人やご家族との話し合いの場も設けている。それに伴い、退院後の計画も立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の支援も当ホームでできることを説明しご本人やご家族と話し合いながら意向の確認を行っている。また、医療機関とも連携を取りながら日々のケアに取り組んでいる。終末期を希望される方には、寄り添える対応を十分に説明し、家族様の要望に近づけるようにしている。	入居時に本人や家族の意向を聞き取っている。看取り時期については主治医が判断し、家族への説明や新たな意向を聞き取っている。尚、入居者の機能向上に望みがある場合は介護老人保健施設等へ紹介することもある。ホームでは看護師による24時間体制を整えており、状況に応じて医療機関との連携を図るなど、最期まで家族の希望に寄り添った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで全職員が技術・知識の向上に努めている。また、ミーティングなどで互いの対応についても話し合うなどして確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年は外部からの協力を得ることができないが、いろんな災害にも対応できる訓練を行っている。また、経験したことを反省・見直す機会も設け、必要に応じて対策を検討している。災害時用の物品や食品も準備し、定期的にチェック・補充をしている。	ホームでは消防署立ち会いによる避難訓練や自主訓練を敷地内の関連事業所職員の協力を得ながら実施している。避難の様子や消火訓練、入居者を避難させた後の様子などを写真に残し、且つ次回の避難訓練時に活かせるよう訓練概要・消防署からの総評・反省点を記録に残すことで振り返りを行っている。備蓄に関してはホーム内に準備し、賞味・消費期限等の定期的な確認や入れ替えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣を理解し、寄り添い信頼関係を築ける様、その方にあった声かけを心がけている。	入居時に家族や本人に生活歴を聞き取り、入居者がこれまでの人生の中で大切にしてきた思いや誇りを受け止め、入居後も継続して生活ができるよう日々支援に努めている。各職員は入居者への支援の際にはその方への尊重と思いに寄り添った適切な支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の関わりから、なんでも思いを伝えてもらえる様な雰囲気を持ち、思いをかなえられるように傾聴し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を尋ね、一人ひとりに合わせて個別ケアや、集団での関わりを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や着たい服を選んでもらったり、身だしなみができるように支援している。ヘアークットも(カー)定期的に外部から来てもらったり、馴染みの美容室との関わりを継続している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物、バランスを考えてメニューを作成している。季節食・行事食も取り入れ見た目も楽しんでもらっている。調理の準備やおやつ作り、片付けなど入居者同士、スタッフが一緒になっておしゃべりしながら関わりを持って支援している。	職員の持ち回りで1週間分の献立を作成し、法人内の調理担当者が昼食・夕食を調理している。食事にはいただき物の旬の野菜や近所の新鮮市場から調達した食材を使用し季節感を考慮するほか、パテ状の食材を魚の型に入れてかたどることで原型に近づけたソフト食を準備するなど工夫している。入居者の誕生日には希望する食事を提供したり、秋にはお萩を作っておやつ時に提供したりするなど、入居者にとって食事が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の表を活用したり好まれる物を取り入れている。形状・食器・スプーン類も工夫して提供している。必要に応じてトロミ剤を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず付きそう、磨き残しがないか確認し、必要ならば歯間ブラシも活用している。歯磨きができない方は職員が薬用マウスウォッシュやブラシ、ウェットガーゼ等を使用し口腔内を清潔に保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、失敗がないよう時間をみながら声掛けしてトイレへ誘導している。それによって、パットの使用を減らすケアに努めている。	職員は各入居者の排泄パターンを把握し、個別の排泄支援を行っている。声掛けや促しを適宜行うことで布パンツだけの着用で心地良く生活ができることや、排泄パターンを把握していることで声掛けによるトイレでの排泄に繋がっている。また、尿取りパットやリハビリパンツの使用を最小限にすること、いずれは布パンツで心地良く生活できるよう排泄の自立が実現できることへ職員が意識を持った排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合わせた、毎朝牛乳やヨーグルト、白湯等を提供している。軽体操や食事の前にはユニット内を歩いて適度に運動をできるようにしている。また、トイレに行かれた際は必要に応じて腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴準備を行い、その日の体調や気分に合わせてそれぞれに支援している。入浴剤や季節を感じ(菖蒲・柚子)気持ちよく入っていただけるような支援もしている。	ホームでは入居者が週3回入浴できることを目標に支援を行っている。毎日入浴ができるよう準備することで、その日に入浴の拒否や体調不良で入浴中止となっても翌日に代替することができ、職員の柔軟な対応へと繋がっている。皮膚疾患等は看護師の専門的意見や指導を受け、適切な入浴を実施している。季節を味わえる工夫をし、入居者が楽しく入浴できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や家事をして活動的に過ごしていただき、昼間に個々に合わせソファーや畳で寛げられるような支援をしている。夜は安眠できるように室内の照明や布団の調整や温度管理を行って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効能などは把握し、家族様へも説明できるようにしており、その方の症状等を受診時に伝え、薬の相談も主治医へできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、お菓子作り、食器洗い、洗濯物干し・たたみ、広告紙でゴミ箱折り、花飾りなどできることをして頂いる。天気の良い日はベランダへ出て日光浴やレクリエーションをして楽しむ時間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さんの希望を聞き、計画をたて、外出、ドライブ等季節を感じてもらえるよう工夫している。自宅訪問や信仰されている寺院など、ご家族の理解を得て行っている。	コロナ禍の影響により外出を制限していることから以前のような外出はできていないが、職員は入居者の希望を聞き取り、人混みの少ない時間や期間を検討しながらドライブで屋外の景観を楽しんだり、木々や花々の風景を目で見ることで季節感や解放感を味わうことに繋げ、入居者へのストレスのケアに配慮している。また、屋内のAユニットのベランダで外気浴を楽しむこともできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物するときは財布を所持して頂き、好きな物を購入出来るよう支払いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様へ電話の支援や。年賀状や暑中見舞いの葉書きを準備し、書いて頂けるよう支援している。書けない方は写真を添付し、職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂場やトイレ、居室には表札を下げ場所がわかるようにしている。テーブルには季節の花を飾り、季節を感じてもらえるように整えている。	共用空間のフロアや廊下等は定期的に清掃し清潔保持に努めており、手すりは万一口にしても安全な消毒液を使用している。居室の入口には入居者が迷うことなく自分の居室が分かるよう目印をつけ工夫し、フロアで安心して他の入居者と会話ができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が気に入った場所と気の合う人と、心地よく過ごせる様ソファ、畳、テーブル、座席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用されていた馴染みのある物品を持ってきて頂いたり、落ち着いて安全に生活できるよう空間作りをしている。	居室には入居者が在宅時に使用していた寝具等を持ち込み、以前からの生活が継続できる居室づくりに努めている。また、入居者の身体状況に応じた介護の動線を確保することで安全に生活できるよう住環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力やADLを十分に把握し、リスクも想定し、安全に生活出来るように支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念以外にもスタッフ全員で介護理念も考えて作り、目につきやすい場所に掲げており、常に想いを共有して実践に繋げることが出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナ感染症の観点から地域との関わりや交流が出来ない状況が続いている現状である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者、外部や家族からの質問を受けることもあり、認知症の方への対応の仕方なども含めて丁寧に説明するよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策を考え、運営推進会議のあり方を変更しながらお互いの意見交換が出来るよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での相談や、話し合う機会をつくり、関係がとぎれないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会やミーティングでホーム内での拘束につながることはないかなど話し合う機会があり、定期的に検討し拘束のないケアの実践が出来ている。ユニット間の移動も含め、玄関やドアの施錠もせず行き来できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会、資料を作成するなどスタッフ全員で話し合い、学ぶ機会を設けて実践に繋げることが出来ている。馴れ合いから見過ごすことのないよう、未然に防ぐことができるよう都度、声を掛け合い注意するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を閲覧して学ぶ機会はあるが、当施設では制度を活用するまでには至らない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前にホーム内の見学をして頂き、ホームの特徴など説明し納得してもらい契約を交わしている。入居されてからも改定などに応じて説明・同意を得て疑問点も尋ねるなどし、理解・納得して頂けるような対応が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートや、家族様・面会者からも意見・要望を聞いた際にはミーティングや申し送りで伝え、運営推進会議で報告しサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	医療法人より、一般社団法人への変更に伴い、職員の混乱を招かないよう説明を受けて、職員の意見や疑問、提案を聞く機会を設けた。要望等も声が届けられるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望になるだけ沿うように調整し、家庭の状況に合わせお互い助け合いながら働きやすい環境作りに努めている。又、自己評価を各人記入し、個々の実績や能力を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の不足している部分を向上させる為に、オンライン研修を取り入れ学べる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会において、交流の場を設けている。又、記録の書き方やアセスメント、計画書に関連する内容を情報交換できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階でご本人やご家族と十分に話し合い、要望を聞いており、ご本人が安心して生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は時間を設け、家族様が何でも話が出来るように雰囲気作りに努め、信頼関係を深めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあったサービスに優先順位を見極めて、適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、安心して何でも話せるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と話しやすい関係を作ることで絆を深め、ご本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の担当者が、本人様のご家族様に聞き取り出が来る限りご本人様の希望に添えるように心がけている。しかし、コロナ禍で面会や外出が思うように出来ないが、対策を考案し関係性が悪くならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日のうちで全員が集まりレクリエーションなどの参加を促したり、スタッフが中に入り会話の橋渡しになり孤立することがないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもご家族へ電話をし、近況をお尋ねしたり必要な時には相談や支援に繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の思い・希望など把握できるように努めている。意思疎通が難しい方は、表情・しぐさなど観察しながら気持ちを汲み取ることが出来るように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の入居前の生活様子など、ご本人やご家族に伺いスタッフ全員で把握する様に努めている。また、新しい情報などがあれば追加しスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の日々の様子を見ながら、その方の好み・出来ることに合わせその方らしい生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のモニタリングをスタッフ間で行い、必要に応じてはご家族へ相談・協力をお願いしたりして現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践を記録をし、気づきなどがあればミーティングなどでの話し合いで情報の共有をし、介護計画に活かし実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況を聞き取り、相談しながらその方に合った支援・サービス対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と交流など今はコロナ禍で出来ないが、外気浴や外出を工夫して楽しめる時間を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が信頼されている地域の医者との関係を継続しつつ、必要に応じて他の医療機関を受診し、適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に適宜相談し、必要に応じた医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病気などが重度化した場合、早い段階でご家族、ホーム側、主治医・看護師が話し合い、ご家族の意向に沿った支援が出来るようスタッフ間でも情報を共有しながら協力し取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての情報を十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の高齢化・重度化が進む中、話し合いを重ねお互いが納得しスタッフも共有しケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで全職員が技術・知識の向上に努めている。また、職員がお互いの対応について話あうなどして、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年は外部からの協力を得ることは出来ないが、昼夜を問わず火災や自然災害に対応出来るよう、定期的に訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣や性格を理解し、その方に寄り添い、適した声かけを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思いや要求を聞いたり、自分で決めることが出来るよう、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にし、その方の希望を取り入れ、過ごしやすく生活出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服装にならない様、ご本人に選んでもらったりお洒落をする事や身だしなみも気を付けながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を考え、一人一人に合った形態や量を食べやすい方法で提供し、食事を楽しむ時間を過ごして頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や一日のバランス・水分量を確認し、ご本人の食事や水分摂取方法も好まれる方法に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔ケアを行い清潔を保つ様支援している。定期的に歯科受診を行い、メンテナンスに通えるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄習慣や動作などを見てトイレでの排泄が出来るよう声掛け・誘導支援を行っている。また、排泄時の姿勢の工夫や日中なるべく尿取りパットやリハビリパンツ使用の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を共有・活用し運動への参加を促す他、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れたり、個々に応じた予防法に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の時間を設け、一人一人の入浴時間やタイミングに配慮し、適温でゆっくりと入って頂ける様支援している。また、柚子や菖蒲湯など風習を取り入れ、季節感を感じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具・室温調節やその方に合った時間に、声かけし、心地よい眠りにつけるよう支援している。また、日中に活動を行い、適度な運動を取り入れ夜の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効能などは、主治医や薬剤師に確認して把握し、状態変化等は、受診時に相談できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った趣味や作業が出来るように支援している。また、馴染みの場所・季節を感じて頂く為、外出を楽しまれる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を確認し、ドライブなどの外出支援を行っている。また、ご家族にも相談・協力をお願いすることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が欲しいもの、必要な物品を買える楽しみを持ち、お金を使うことが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ電話をかけ、話をして頂いている。また、間に入って話の橋渡しをしている。又、手紙を書く事が困難な方には代筆を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全にまた、清潔に配慮した環境を整え、居心地の良い場所で楽しく過ごせる時間・空間を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳など置き一人一人が居心地良い場としてゆったりと過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してくつろげる空間を作り、装飾物や写真など馴染みの物を配置し、気持ちよく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の出来る事や楽しめる事を活かし、目線に合わせた工夫をして安全に過ごせる様に確認している。		